

令和4年度 第2回 岡山県文化振興審議会

日時：令和4年8月24日（水）14時～15時20分

場所：おかやま旧日銀ホール（ルネスホール ワークルーム）

1 開会 環境文化部長あいさつ

【環境文化部長】

- ・ 去る6月の本審議会において、活発な御議論により、様々な角度から貴重な御意見をいただいたが、本日は、そういった御意見等を踏まえ、ビジョンの中間見直しに向けた素案をお示ししたい。
- ・ 今回の素案では、新型コロナウイルス感染拡大という予想外の事態において、文化芸術を取り巻く環境が大きく影響を受けたことなどを踏まえ、持続可能な文化振興の取組などについて、新たな視点を取り入れて見直しているが、委員の皆様方には活発な御審議を賜りたい。

2 議事 おかやま文化振興ビジョンの中間見直し

【事務局から資料に基づき説明】

【議長】

- ・ コロナ中心の世の中になって3年近くになろうとしているが、考えようによっては、日本の桃山時代にしても、あるいはヨーロッパのルネサンスにしても、世の中が相当ふらふらした時に、次の新しい希望や夢、理念へと移っていくのだろう。あくまで良い方に解釈すればそういう捉え方もできると思うが、委員の皆様方には活発な御審議をお願いしたい。

【委員】

- ・ 芸術系専門学科を有する高校や大学との連携について、従来は「部活動、職場実習、出前講座などによる連携」が主体だったと思うが、最近は授業の中でアウトリーチ活動を行うことが増え、受け入れ側の地域の協力体制も充実してきているので、アウトリーチ活動について言及していただければありがたい。
- ・ ある大学での音楽の授業では、学生が一からコンセプトを考え、プログラム全て

を組み立てていくコンサートを開催したり、フラッシュモブという、何気なく通行しているように見えている人が突然演奏をし始めるような、アートの活動も実施したりしている。

- ・ 別の大学では、学芸員の実習で美術館を訪れることとは別に、社会に対してどのように働きかけるかということを経験の間に意識付けして、どの目標に向かっていけばいいのかが学べるような授業が展開されている。

【委員】

- ・ 伝統工芸の保存継承活用について、最近若い方が伝統工芸に携わっても、なかなか後押ししてもらえないので続けることができず、仕方なく違うところに行くか、それをやめて別の仕事をされる方もおられる。細々と工芸をやっているような若い人たちがそれを続けられるように、県が、相談窓口などを積極的に前に出してアピールしてほしい。その方が続かなくなることで全てがなくなる伝統工芸もある。
- ・ 資料 16 ページの子どもや若者の文化活動の充実について、伝統工芸に携わる若い方にアウトリーチに関わってもらうことで、子どもたちに関心も持ってもらい、魅力的だと思ってもらうことが大事だ。前回も話したことだが、映画を学校で上映した後に、映画関係の人たちに解説をしてもらうことも、子どもや若者の育成につながっていくのではないかと思う。
- ・ アウトリーチ活動は、子どもなど様々な方へのアウトリーチをしながら、そのアウトリーチを受けた人、それから、それを見つめている人たちをも教育して育てていくが、そういう人数を増やしていくこともすごく大事なのではないかと思っている。子どもたちが関われば、親たちも関わることもあるので、アウトリーチを受ける人だけでなく、カバーする人を育成するとすごく広がっていくのではないかと思う。

【議長】

- ・ 伝統工芸を続けていくことは本当に大変な時代だ。以前、刀鍛冶になった人が転職をされて惜しいと思ったこともあった。県が、「こんなところがあるよ」とか、「こんな展覧会にチャレンジしてみたら」とか、そんな声をかけるだけで大きく変わると思う。

【委員】

- ・ 文部科学省が、これから、学校でのクラブ活動を減らしていくことをうたっていると思う。資料 16 ページに、地域の文化芸術団体と連携協力した地域における文化芸術に親しむ環境充実に取り組むとあるが、具体的なことが全くわからない。だ

れを通して、どこを通して、どういう活動をしていくのか、どういう子たちに、どういう風に、どの場所で、とか。そこに出ていくアーティストあるいはサポーター、そういう人たちにどれくらい支払われるのか、といったことが全くわからない。

- ・ 少子化で保育園の定数とか、学校経営も難しいところが出てきているのでしっかり考えないといけない。一方で、岡山市内でマンションが次々に建設されている地域では子どもたちも増えている。教育委員会でフォローができていないか承知していないが、子どもたちをきちんと見るためには、具体的な記述が必要なのではないか。私は現場にいるが、中学校などには美術の先生がほとんど全くいない。教育委員会の中にいない。専門が一人もいない。受験に関するものだけが取り上げられ、音楽や美術などが圏外に置かれている。教育委員会が考えることではあるが、音楽や美術を教えるのであれば、そことの連携などをはっきりさせておくべきだと思う。
- ・ 資料 27 ページで、障害のある人のアート展に係る指標がなくなっているが、何か方向が変わったということなのか。

【事務局】

- ・ 県の事業は終了したが、民間で自立して取組を継続されることとなったため、指標からは削除したものである。

【委員】

- ・ 小学校も大変な時代になっており、ネット環境が整ってきて、e-learning など、様々なデジタル化が進み、先生方も経験していなかった業務も生じており大変忙しい。しかし、せっかくネットが整ったのであれば、岡山の文化を子どもたちへ発信することなどに使うことで、何か糸口が見えないかと思う。そういうこともあって、もっと使っていこう、ということもビジョンに記載して良いのではないかと思う。
- ・ 今回のコロナ禍の中、最近、メタバースなど、仮想現実の中でいろいろなことができるようになり、それで満足できるような世界が一つできつつあるが、それではいけない。やはり、我々も子どもたちも、リアルの世界を知らないとバーチャルの本当の楽しみ方ができない、というふうな意味で、バーチャルの中には本当の文化はないのではないか、本当の文化がわからないとバーチャルの文化もわからないのではないかと思う。文化はデジタル社会の中でもものすごく重要なことだということをアピールする文言が、このビジョンの中のどこかにあってもいいのではないか。
- ・ 資料 24 ページの「実際に足を運んで文化芸術に触れることが難しい場合」の記述について、リアルな場面での体験をしていただくことが一番大切で、それができない物理的な環境や今般のコロナなどのような場合には、ネット上でいろいろなことを体験してもらえると、ということは良いが、前段の部分は、もう少し、ビジョン

に記述すべきではないか。

- ・ 懸命に伝統を守り続けている作家の皆さんがおられるが、それを継承するにはエネルギーが必要だと思う。ネットのいろんな技術を活用することで、継承できるような部分も出てくる。子どもたちに文化をネットで教えることで関心を持ってもらい、工芸、伝統工芸、民芸、いろんな地元のいろんなことについて、授業だけではわからないこともネットでの検索などをきっかけに子どもたちに芽生えれば、岡山の文化芸術の振興につながるのではないかと感じているので、もっと活用するようなことを記述してはどうかと思う。

【委員】

- ・ 資料 8 ページに「この度のコロナ禍が文化の価値を見つめなおす機会になった」との記載がある。確かに、コロナが社会を変えた、価値観を変えたということは実感しているが、背景などについて説明してほしい。

【事務局】

- ・ コロナ禍で様々な芸術活動が中止、制限される中で、文化芸術活動を行う方も受ける方も機会が減ってしまったが、感染状況の改善により少しずつ活動ができるようになった時に、多くの方から、活動できる喜びや、久しぶりに見たときの感動の声をいただいた。経済的な面だけでなく自分たちが今まで当たり前に行っていた活動ができなくなったことで、今までできていたことが幸せだったというような声もたくさんいただいた。
- ・ 今回あらためて、今まで当たり前に行っていたことができなかったことで、文化芸術という存在がどれだけ価値を持つものだったか、それがいかに大きかったか、というような声がたくさんあったことを踏まえ、我々の今回の文化振興ビジョンで大切にすべきこととして記載させていただいた。

【委員】

- ・ 文化そのものよりも、文化活動が阻害されたことで、人と人とのつながりや、文化や伝統が次世代へ継承されることのすばらしさに気付いたということか。

【事務局】

- ・ 付け加えれば、今年の夏、様々な祭りが3年ぶりに開催されたという報道もあったように、文化活動だけでなく地域での伝統行事等のすばらしさに気付く機会にもなっている。

【委員】

- ・ 資料 19 ページの「障害のある人の文化芸術活動の推進」について、少し視野が狭いのかなと思う。文化振興施策に限らず、岡山県、岡山市いずれも全体的にグローバル化への視点が少し弱いのではないかと常々思っている。グローバル展開を考える際には、外国人の観光客をいかに受け入れるか、といったことに注力しがちだというイメージを持っている。文化振興は、県民の豊かで潤いのある生活に寄与するという意義はある。一方で、対外的に文化振興がどういう意義を持つのか、国内はもちろん、国外に対しても文化振興がいかにあるべきかという視点も必要なのではないか。それは、空港や国際会議場といったインフラと同じく、社会、都市のイメージをより洗練されたものにしていく、とも考えている。いかに、グローバル化の中で対外的なイメージを高めるか、というのは文化振興の上でも考えていくべきであり、そのための施策であり、オリンピック開催であり、世界遺産登録だろうと思う。障害がある人の文化芸術は、いわゆる社会参画が難しい人が文化芸術に携われるように、ということだと思う。とすれば、障害を持つ人以外にも、外国籍の人たちや LGBTQ の人たちなど、様々なマイノリティーの人々がどうやって文化を通じて社会参画を実現するか、そういった視点が必要ではないか。外国人については国際文化交流のところで触れられているが、あくまで交流の対象となっている。社会参画の一員という視点があってよいと思う。障害のある人についての記述を、様々な社会参画が難しい人々に対象を広げて書き、それを実践していく、そんな視点があれば良いと思う。対外的なイメージを高めるために文化振興をするというのは本末転倒であるが、文化振興がグローバル化の中でイメージアップにつながることは、県民の愛着と誇りにもつながると思う。様々な立場の人たちが文化芸術に親しむ、携わる、そんな活動に自ら参加できるといった項目を作る余地もあるのではないかと思う。

【委員】

- ・ 資料 15 ページの「文化発信しながら交流を広げる岡山」について、オリンピック・パラリンピックに係る項目が削除されているが、23 ページの重点施策の 2 つ目の「次世代へ継承されるレガシーの実現」の部分を読むと、残しても良いと思う。
- ・ 資料 16 ページの「学校教育における文化活動の充実」について、部活動をこれから外部のボランティアに移行するというふうに伺っているが、そうなるますます学校差や地域差が大きくなるかもしれないので、数字で、予算の枠を確保していただいた方が、格差がなくなるのではないかと思う。
- ・ 資料 19 ページの「障害のある人の文化芸術活動の推進」について、「障害のある人」が残されるのであれば、障害の「害」っていうのが、だんだん、地方公共団

体の文書の中では、ひらがなの「がい」に変更されている傾向があるので、あまり変えない方がいいという意見もある中で、岡山県としてはどちらの表現を使っていくのかというのを検討した方が良くと思う。

【委員】

- ・ 非常に積極的に意見を交わすことができている文化振興審議会の在り方は、ほかの審議会では見たことがない。こういう在り方は大事にしてほしい。
- ・ 今までいろいろな意見があったが、例えば伝統工芸の問題などは具体的に手を下していかなければならないが、国からどれだけお金を引っ張ってくるか、というふうなこととかなり関係してくる。国からお金を引っ張ってくるということと、地元の館長とメディアの皆さんとが協力をして取り組むことが大事なのではないか。
- ・ 今回、文化芸術アソシエイツについて具体的に言及していることはすばらしいことだと思っており、地方での各地域の教育の問題などについては、文化芸術アソシエイツを拡大することでかなりの問題が解決するのではないか。文化芸術アソシエイツの良いところは、何年も同じ人が継続して関わることができるところだ。
- ・ 伝統工芸については、ひしお、倉敷民芸館といった民間の活動との連携が不十分であり、それとどう連携すべきか、いろいろと取り組んでみると良いと思う。その道具としても文化連盟とアソシエイツは使えると理解している。
- ・ 地域間の連携については、すごく大事であり、各地の文化がもっと力を持っていくことが大事だと思うので、各地の文化団体や、都道府県、市町村の文化関係の部署との連携を深め、具体的な施策について、例えば、アソシエイツのノウハウなどは全国に教えれば良いと思う。そういうことができる形で取り組んでほしい。
- ・ コンピュータサイエンスの活用については、非常に難しい問題ではあるが、今これをフルに活用しないと時代に取り残される。ただ、これに振り回されたのでは文化は存在価値を見失う。今の書き込みの中では、情報発信のところには記載があるが、クリエイションとか、創造のところでは若干あいまいだと思う。今世の中は、例えば人文科学の研究においても、デジタルヒューマニティーズとか、そういった言い方がされるようになってきているし、先ほどの委員からの発言にもあったように、メタバースや、そういった技術を用いたシミュレーションが、自然科学だけではなく、アートの世界でも、音楽でもかなり行われていると思う。そういう現状となっているだけに、これは、避けて通ることはできない。避けて通らずに、具体的に自分たちで取り組みながら、だけどそれに支配されない、いうふうな仕組みを作らなくてはいけないと思うので、そういったところでも県のアシストが必要なのかどうか。メタバースなどをいろんなところに活用することは支援するが、それに支配されないように、ということはみんな考えていこうという書き込みをしていただけ

れば良いと思う。多分、全国の行政、ほとんど取り組めていないと思う。岡山が全国に少し先んじてやっていいことではないかと思う。

- ・ 民間との連携について、民間はコロナで大変革を迫られており、美術館関係だけではなくて、企業もそうだ。石油ショックの時みたいに、これまでの延長線上で未来を作っていたら企業は潰れてしまう。それくらいコロナの影響はあるので民間との共同作業はまだまだ難しいかもしれないが、情報交換の場は少なくとも県が主導で作ってほしい。あるいは、文化連盟の立場で作っても良いだろう。様々な意味で民間との大きな情報交換をしていこうということをどこかに書き込んでほしい。
- ・ 指標について、点数をつけて物事の優劣を決めるのは企業の世界では 1980 年代に破綻して、そんなことをやると企業は成長しないということが明らかになった。日本の企業が負けて敗退した一つの原因かもしれないと思うが、そんなものをまだ引きずっているのかという印象だ。霞が関は数値目標が大好きなので、岡山県も指標を作らないわけにはいかないだろう。けれども、指標ではない、何か定性的な評価をする、定性的な評価をするためには目利きが必要なので、そういう評価の仕方を導入することを、ぜひ、前文などに、文化のクオリティを見極める仕組みを作る必要がある、といったことを一言書き込んで、点数評価ではない評価のやり方を作ってはどうか。実は、人文系の様々な業績評価は、論文の数とか、影響指数、インフルエンスなんか、そんなインデックスで評価してはだめだという声が出てきており、文部科学省が非常にかたくなで聞こうとしないが、そういう声を通すためにも、地方からも数値評価を超えた評価を行う、ということをどこかに書き込んでほしい。

【議長】

- ・ 文化に対して、県や市町村のそれぞれがこれほどがんばっている地域は、そうは他にないと思う。それは、やはり岡山の歴史と文化のおかげだろうと思う。岡山はどこにもないようなすごさをたくさん持っていて、多様性に溢れ、絶対解決できないものはない、というのが岡山の歴史と文化だ。そういう意味で、皆さん方の知恵をこれからもどんどんお借りしたいので、今後ともよろしく願います。

3 閉会 環境文化部長あいさつ

【環境文化部長】

- ・ 委員の皆様方に大変熱心に御議論をいただいたことにお礼を申し上げます。今後とも本県文化の振興・発展にお力添えを賜るようお願い申し上げます。